



すぎなみフェスタで、発信しました！

4年生が紫藤ご夫妻のご指導を仰ぎながら育てたゴーヤ。この取組を、11月8日に行われた「すぎなみフェスタ2025」で紹介しました。環境コーナーに一つのブース（テント）を構え、地球温暖化防止のための一つの実践として発信しました。

子どもたちは、大きな声でお客を呼び込み、新聞の紹介や、ゴーヤの種を入れたしおりを配ったりしました。また、子どもたちが作成した塗り絵も大好評でした。町長様や教育長様も訪れてください、子どもたちの活動を応援して下さいました。



ふるさとの誇りを多くの人に伝えたい～鼻ぐり井手物語の完成～

鼻ぐり井手の絵本「鼻ぐり井手物語」遂に完成しました。町文化財ボランティアガイドの会の松永政秋会長の文に、本校の保護者である松野和宏さんが絵をつけ、その色塗りや題字を本校の4～6年生が担当しました。完成した絵本は、菊陽町全ての学校に送られ、今後のふるさと学習に生かされます。

11月14日の熊日新聞でも大きく報道され、16日の鼻ぐり井手祭の場で、松永会長から児童代表（6年：矢野優太さん）への贈呈式が行われました。

子どもたち、そしてたくさんの方々の「ふるさとの誇りを多くの人に伝えたい」という思いが、1冊の絵本という形に表れ、これから様々な人の目に触れ、拡がっていくことを想像すると喜びが溢れます。



練習の成果を発揮し輝いていた鼻ぐり井手祭

11月16日（日）に開催された「鼻ぐり井手祭」。そこで、南小の子どもたちが大活躍でした。馬場楠の獅子舞は莊厳かつ華麗で、歴史の重みを感じさせてくれました。ステージの正面で鑑賞していた子どもたちは、獅子舞に囁まれ福をもらおうと楽しんでいました。

次に、3・4年生による音楽劇。鼻ぐり井手ができるまでの様子を劇と音楽で立派に表現していました。3・4年生は、「ボランティアガイド養成講座」を受けて、この日のために9月から練習を重ねていました。毎日、音楽室で自主練習をしていた子どもたち。その成果が見事に発揮されたひと時でした。

最後に5・6年生によるボランティアガイド。訪れた大人の方々（町長様をはじめたくさんの方々）に、鼻ぐり井手の歴史や魅力を堂々と説明することができました。

